

# 山行報告書

神戸勤労者山岳会

1 参加者 大川、井谷、西

以上3名

2 山城・ルート 西穂高岳 西尾根

3 交通手段 電車 車 バス

## 4 行動記録

入山日 2014年3月21日 下山日 2014年3月23日

3月21日(金) 3:50 大川車出発→4:00 西邸→4:30 タイムズコープ有野 井谷さんピックアップ→  
10:30 新穂高駐車場 (6時間)

→11:00 新穂高(H1200)出発→12:30 穂高平(H1350)→西尾根取付→16:15 1946 地点  
(行動6時間15分) テント泊

3月22日(土) 3:30 起床→6:00 1946 地点出発 →9:30 2400 岩稜地帯付近 11:00 2738 地点  
→14:50 西穂山頂 →ピラミットピーク→独標→17:40 西穂山荘(テント泊)  
(行動11時間45分)

3月23日(日) 5:00 起床→7:00 西穂山荘出発 →8:00 西穂高口 ロープウェイ→9:20 新穂高→  
入浴後 帰神 17:00

## 5 山行中の問題点・事故に繋がる要因

### a 山行は予定の内容・日程で行動出来たか

3月21日 ~3月20日から30cm程の新雪が積もり、トレースあるも、進行が遅れ、予定より高度で400m下の1946地点でテントを設営した。

3月22日 ~ スタート地点が予定より高度400m下であったこと、雪壁、岩稜の難所を通過するために予想以上の時間を要したことより、西穂山荘到着時間が予定より2時間45分遅くなった。

### b 事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか 発生した場合は具体的に記す

3/22 2400 岩稜地点で、アイゼンを装着中にアイゼン(グリバル製2~3年使用)後部のプラスチック製ハーネスが折れた(H26/1に前部のハーネスが折れたのと同じアイゼン)。応急措置(アイゼンベルトを利用したり、シュリングで括り付けたりした)を行い、核心部の岩稜地帯や雪壁をなんとか突破できた。

### C 山行の問題点、今回の教訓

- ・一度破損したアイゼンを、修理したからといって、再度使用したことに問題がなかったか?
- ・アイゼン破損等に備え、修理道具等を持参する必要がある。
- ・雪壁の登りでザイルを1回使用したが、事前打合せが不足していたことと、要領が悪かったことにより、通過に時間を要した。もっとスムーズにできるようパーティでトレーニングする必要がある。
- ・雪壁の登り、トラバース、岩稜地帯の登攀に所々危険を感じた。ザイルを出す判断基準、ザイル

一、確保手段を明確にしておく必要あり。

・フル装備を背負っての長時間の行動は負担が大きい。特に下山時、疲れと、気の緩みから、ミスが発生する恐れが高くなるので、もっと体力、気力をつける必要を感じた。

(天候)

- ・3月20日から雪を降り21日朝まで降り続く。30cm程の降雪となった。
- ・3月21日から22日早朝は風が強く稜線では最大風速20m程度になっていたと思われる。
- ・3月22日我々が核心部を通過する時は風弱まり、快晴となった。(雲海が美しかった)

(感想)

- ・今年5月のGWの小窓尾根山行に備えてのトレーニング山行であったが、ザイルワーク、装備、体力面に課題がでてきて良かった。
- ・冬季もバリエーション山行はやっぱり厳しいことを認識できた。
- ・今回は天候に恵まれたし、入山パーティが我々も含め4パーティあり、トレスもあったので、難易度は落ちていたと思う。
- ・北アルプスの雪の景観は、この世のものとは思えないほど、美しかった。
- ・パーティ3人が団結し、アクシデントがあっても、登頂できたことは、意義が大きい。
- ・井谷さん、西さん ありがとうございます。

報告者氏名 大川 肇

平成26年3月25日